

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	岡山かなりや学園			
○保護者評価実施期間	令和7年2月10日		～	令和7年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	81名(79家族)	(回答者数)	58名
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		～	令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月11日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	早期に補聴機器を装着し、音やことばを聞かせることで、ことばの力をつけていきます。	療育だけでなく、聴力検査や補聴機器の調整など、担当が聴性行動を確認しながら行っています。0歳児、1歳児の時期には補聴機器をいやがって外すこともよくありますが、療育の中で、常時装着できるための工夫について、お伝えしています。就学前には補聴援助システムの試聴や補聴器の買い換えについての情報提供をしています。	補聴器や人工内耳について情報提供すると共に、保護者の方々の悩みやニーズを聞き取り、お子さんに合った補聴機器の選択と調整に今後もさらに努めていきます。
2	幼稚園・保育園・こども園や関係機関(事業所等)と連携し、子どもたちが住む地域のお友だちとの関わりの中で成長できるように考えています。	保育所等訪問支援事業や岡山県聴覚障害児支援中核機能強化事業で園児が通っている園などに訪問し、聴力や補聴機器について説明すると共に、聞こえにくさに対する配慮などについてお伝えしています。	多くの関係者に聴覚障害について理解して頂くためにも、必要に応じて訪問の時期や回数を検討していきます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の場が少ないこと	コロナ禍で個別療育が中心となり、療育の時間もずらしていたことが影響し、現在は通常の療育に戻っていますが、保護者同士のつながりが以前に比べて少ないように感じます。	卒園生保護者も含め、保護者同士の交流の機会を増やしていくようにします。
2	保護者の本当のニーズをきくことができているかどうか	両親共働きや一人親家庭、きょうだいの都合などで忙しい家庭が多いため、ゆっくりと話をうかがう時間がとれていない場合があります。また、時間だけでなく、こころを開いて本音が語り合える関係性かどうかということも、考えていかなければいけないと感じています。	普段は来園しにくい保護者のご都合に合わせて、オンラインなども利用しながら、定期的にお話が伺える機会を作ります。保護者の方々が、相談しやすい環境を作っていきます。
3	避難訓練の機会が均等でない	毎日通園ではないため、毎月避難訓練を実施していますが、曜日や時間帯によっては経験できていない場合があります。	今年度は火災、地震だけでなく不審者や近隣火災などを想定した避難訓練を実施しましたが、さらに様々な場面を想定した避難訓練を実施します。また、通常の療育時だけでなく、研修会や行事などいつもより多くの参加者での訓練も考えていきます。